

紀南 さとおや REPORT

つながりでささえる
こどもの「いま」と
「みらい」



紀南里親支援連絡会

事務局：里親支援センターほっと

〒646-0217 和歌山県田辺市城山台5-1

TEL 0739-34-2735 <https://www.wfj.or.jp/hot>

ロゴデザイン：児童養護施設ひまわり寮

妊活、養子、里親、
2人がたどり着いたのは
「チームで子育て」というかたち



生後9ヶ月の男の子を迎え入れ、養育里親になった二河田さんご夫婦。いつかくるその日のために、実親さんにもこどもの成長を知っていて欲しいというお2人の気持ちが、なんとも力強く、あたたかく、少しだけ切なく心に響きました。

いつかは送り出すとわかっている、受け入れは瞬時に決めた

Q 養育里親をすることになったのはどのような経緯ですか？

年齢的に不妊治療のリミットが近づいてくる頃、里親についての情報を得られるようにチャンネルを広げ始めました。最初は、特別養子縁組を考えていましたが、それは狭き門であることを知りました。結婚したからには2人で子育てがしたいという気持ちで妊活を始めたので、こどもの成長を見守ることができるなら戸籍にこだわらなくてもいいねと、養育里親にも登録しました。

Q 受け入れは、こどもが何歳の時に始まったのですか？

9ヶ月の時でした。一番最初に会ったのは生後6ヶ月。連絡がきて会いに行き、「めっちゃ可愛い！受け入れたい！」とほぼ即決でした。それからマッチングが始まり、乳児院で半日一緒に過ごし、1日過ごし、お試しの外泊などを経て、約3ヶ月後に正式に預かることになりました。



にかた

Q 養育里親である以上、いつかはこどもと離れるタイミングがくると思うのですが、そのあたりの気持ちはどうですか？

児童相談所の方から「最終的に、実親（こどもの生みの親）は引き取りを希望されています。」と説明を受けているので、迎え入れることを決めた段階である程度覚悟はできています。とはいえ、いなくなることを考えると寂しいですよ。その日がきたらどういう感じで送り出すんでしょうね。

「こどもを奪われる」と思わせてしまうことが怖い

Q 実親さんとのつながりはありますか？

この子と実親さんと児童相談所で、月に1回面会の時間があります。実親さんと私たちが、直接顔を合わせたり話をしたりといったことはありません。面会の時も、児童相談所の方にこどもを預け、実親さんが帰られた後にこどもを迎えに行くという感じです。

Q 真実告知（里親として預かっていることをこども本人に伝えること）はどのように考えていますか？

真実告知の1つの基準年齢が3歳ぐらいと聞いています。その頃まで今のような面会が続いていれば、「あの人は誰？」「どうして毎月行くの？」と聞かれるときが告知のタイミングだと思っています。実親さんとの面会が途切れている状態だったら、どういふに伝えるか考えなければならないですけど、どうなるかはその場面がきてからでないとわかりません。最終的に引き取りを希望しているとわかっている以上、実親さんが安心してその日を迎えられるよう、私たちにできることはしたいと思っています。「こどもを奪われる」と思わせてしまうことが1番怖いですね。



こどもの日常と成長を、チームで分かち合う

Q 実親さんとの関係を保つために「できること」とは、例えばどんなことですか？

今の状況での話になりますが、実親さんのタイミングに合わせて定期的に面会を設定し、決して「私たちの都合で面会を断らない」のがまずあります。もう1つは、「この子の情報を実親さんにしっかり伝えること」ですね。こんなことに興味があるとか、こういうところに遊びに行ったりとか、この子の日常や成長を自分たちだけのものにしないことを大切にしています。実親さんが「こどもを奪われるかも」と不安になるのも理解できます。委託率（里親家庭に、社会的養護の必要なこどもを迎え入れられる率）が上がらないのも、やはりそこだと思うんです。私たちは最終的にあなたにこの子を返すつもりで預かっている、だから、この子の成長と一緒に知っておいて欲しいという思いをどうにか伝えられたら、「奪われる」という不安はある程度防げるんじゃないかなと感じています。ただ、私たちは実親さんと直接やり取りができないので、間に入ってくださる方々をお願いすることにはなりますけどね。

Q 実親さんと今のような関係については、養育里親になる前から考えていたのですか？

初めから思っていたわけではありません。里親のを知り、登録し、マッチングをして受け入れることになり、その都度考えてきました。今は児童相談所や里親支援センターの方が家庭訪問に来てくれていて、いろんな話をしている中で徐々にこういう気持ちになってきました。昔、里親のことをテーマにしたドラマを見た時に、実親と里親が「僕たちはチームですね」というようなシーンがあって、その言葉がとても腑に落ちています。この子を中心に、この子に関わる人みんながチームの一員。今はそんなふうには思っています。



Q こどもにはどんなふうに育てて欲しいですか？

何より元気に育てて欲しいです。大きくなって自分の状況がわかった時に、実親さんのことも理解できる優しい子に育てて欲しいなと思っています。



養育里親 二河田香織さん・浩之さん

浩之さんが祖母の故郷である串本町田並に移住したのは13年前。自宅の一部を事務所にして行政書士として働いている。古座川町の団体職員である香織さんと結婚して9年が経つ。

「後輩のような存在」に
16年の時を経て、ゆるやかにつながる



養育里親

石田泰介さん・二三代さん

天理教高尾分教会の会長として運営を担いつつ、造園業を営む。

石田さんご夫婦は、5人の子育てをしている中で、里子としてまことくんを迎えました。3歳で石田家にやってきたまことくんは、今年で19歳。実子、里子の隔たりなく、子ども達の力を信じて見守るご夫婦の姿が印象に残っています。

里親=養子ではなく、うちは小さな児童養護施設

Q 里親になることを、家族内ではどのように受け止められましたか？

家内から「里親の話聞いたんだけど、どお？」と持ちかけられました。私の家は、代々天理教の分教会を運営しています。共働きの信者さんの子どもを数年預かったり、生活に困っている人がうちにやってきたり、子どもの頃から家族以外の人が家に居ることに違和感なく育ってきました。家内も同じような環境で育っています。実子で女の子5人を育てていたので、まあ1~2人増えても変わらないという感覚でした。

当時、長女は高校生になるタイミングで、ある程度のことは図書館で調べたようです。まあいいんじゃないみたいな感じでしたね。

Q 受け入れが始まった時、地域の人々の反応はどうでしたか？

地区の総会で「里親に登録して、子どもを預かることになりました。まだ幼いので、どこから来たの？とか、そういうことは聞かんといってください。」とお願いしました。なかには「女の子ばかりやから養子もろてんね。」と言う人もいました。「数年後には自分の家に帰るかもしれない子どもです。簡単に言うと、うちは小さな養護施設。だから養子ではないんですよ。苗字も違うでしょ？」と説明していました。

里親=養子にする、そういう感覚の人が多いのかもしれませんが。

信じて寄り添う、子ども達とのゆるやかな関係

Q 子育てで大切にしていることはありますか？

15歳までが土台づくりで、「これすると困るよ」「こうした方が喜んでもらえるよ」というのを伝えることが私たちの役目。そこからは私たちの手を離れて、子ども達自身が身を置く環境の中で、いろんな人と関わりながら自分を形づくっていくと思うんです。もちろん困ったことがあればいつでもサポートはします。このスタンスは、娘達に対しても、まことに対しても同じです。



石田家の子どもたち各自が持つ宝物箱。まことくんの物も大事に保管しています。

Q 石田さんとまことくん、お互いにどのような存在ですか？

まことは、私のことをお父さん、家内のことはお母さんと呼びます。まことの実の母親は京都にいます。中学生の頃から年に1度のペースで会っていて、彼女のことは「京都のお母さん」と呼んでいます。私にとってまことは、そうですね、子どもというより後輩って感覚かな。今、まことは定時制高校に通いながら造園の仕事をしています。その後は帰って来るような話をするので、一緒に仕事をすることになるでしょうかね。社会人として新しいステージに立つまことを、人生の先輩としてこれからも見守っていきたくと思っています。

「月イチ親戚」を重ねて築く、
こどもにとってもう一つの居場所



週末里親

川崎由依子さん・貴光さん

各地のイベントなどに、季節の食材を使ったおむすび屋を出店。ドキュメンタリー映画などの上映会も主催している。

中辺路町高原、熊野古道のほとりに暮らす川崎さんご夫婦。週末里親として小学4年生の男の子を受け入れることになりました。数年の時を経て中学生として新しい生活が始まる彼に、そっとあたたかく寄り添っています。

自分たちのできる範囲を考えて出した答えが「週末里親」

Q 里親制度について知ってましたか？

里親のことを知ったのは大人になってから。児童養護施設で働く友人を通じて知りました。子どもが好きだったので、自分たちの子どもは育てられなくても、なんらかの形で子どもと関わりたいという思いがありました。

ずっと一緒に生活をする養育里親は無理かもしれないけど、週末や月に数回受け入れるぐらいならできるかも。いろいろ考え、2人で出した答えが「週末里親」でした。

Q 子どもとはどんな風に過ごしていますか？

野球をしたり、漫画を描いたのを見せてもらったり、近所の子ども達と遊んだりもしています。せっかくなのでいろんなことを体験してもらえたらと、映画を観に行ったり、温泉に行ったり、出かける機会も作っています。

Q どれくらいのペースで受け入れをしていますか？

普段は月に1回、学校が長期休暇の時は月に2回ぐらいです。一緒にいる時間は楽しいけれど、今回は何をしようか？ご飯は何を作ろうか？と考えているので、ちょっと力が入ってるんでしょうね。仕事が週末になることも多いので、今はこのペースです。頑張りすぎるとたぶん続けられない。私たちのペースで受け入れをしています。

「ここに来ていること」が、あたたかいものとして心の中に残りますように

Q 受け入れが始まってから、子どもに変化はありましたか？

学校の先生の話ですが、うちに来る日は学校でもすごくテンションが高いらしいです。「今日はよろしくお願ひします！泊まりに行けることが本当に嬉しそうで、1日頑張りましたよ。」という言葉聞いた時は嬉しかったです。



子どもが描いた絵を大事に保管している由依子さん



川崎さんの家に来たらいつも遊ぶ場所

Q 週末里親をしてみて、今はどんな風に感じていますか？

週末里親の「親」という言葉に、親っぽくしなくちゃいけないというイメージで構えてしまうのはあるかな。「週末」にも心苦しさがあって、毎週じゃなくてごめんねって思っています。「月イチ親戚」ぐらいの名前だったら気負わないのかな(笑)。ここに来る週末が、今はイベント的になっているかもしれないけれど、大人になっても立ち寄れるような、もう一つの自分の居場所と思ってもらえたら嬉しいです。いつの日か、一緒にキャッチボールをしたこと、フライドチキンを食べに行ったこと、今ここに来ていることが、何かしらあたたかいものとして彼の中に残りますようにと願ひながら迎えています。

教えて！里親 Q&A



Q. 紀南には里親家庭で暮らしているこどもはどれぐらいいるの？

A. 現在は8人のこどもが里親家庭で暮らしているよ。

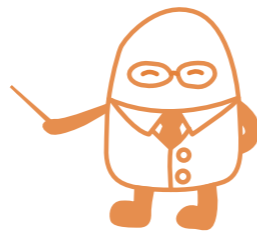
現在、紀南地域には家族と暮らすことのできないこどもたちが約40人存在します。同じ地域の中で、里親として登録しているのは44世帯、その中で、実際に里親としてこどもを家庭に迎え入れて養育しているのは8世帯です。(R7年3月現在)

※ 紀南とは、みなべ町・田辺市・上富田町・白浜町・すさみ町・串本町・古座川町・太地町・那智勝浦町・新宮市・北山村の11市町村を指します。

Q. そもそも里親ってなに？

A. 実の親と一緒に暮らすことができないこどもを自身の家庭に迎え入れて育てる人のことだよ。

家族と離れて暮らすこどもたちは、国内におよそ3万2千人、和歌山県内におよそ300人が存在し、その8割程は児童養護施設等で暮らしています。さまざまな事情で実の親と暮らすことができないこどもを家庭に迎え入れ、一緒に生活する人を「里親」と言います。里親制度とは、児童福祉法に基づいて里親登録を行いこどもの健全な育成を図るための公的な制度です。



養子縁組里親

こどもと法律上の親子関係を築き、実子として家庭に迎え入れる里親のことです。

養育里親

保護者のもとで育てることのできないこどもを一定期間、自分の家庭に迎え入れて養育します(実親の状況によって、途中で保護者の元に戻ります)。

専門里親

虐待を受けたこども・非行あるいは障害のあるこどものために、専門的な知識をもってこどもを受け入れます。

親族里親

祖父母など、こどもの扶養義務者やその配偶者が、親の死亡・行方不明などになってしまったこどもを育てます。

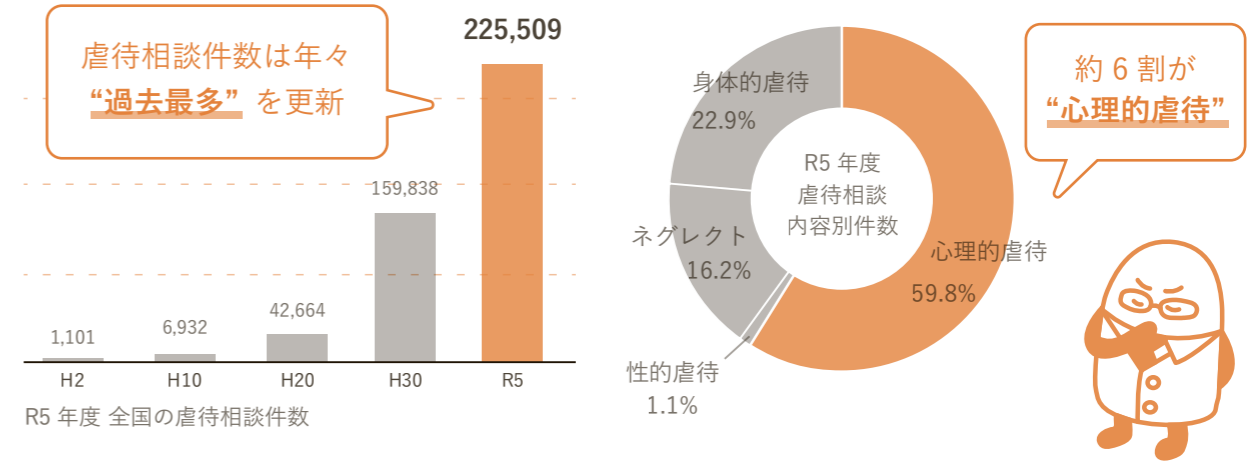
週末里親

児童養護施設で生活しているこどもたちを休日や長期休暇に迎え入れ、家庭生活の体験を提供します。

Q. なぜ家族と一緒に暮らせないの？

A. 主な原因は「虐待・ネグレクト」なんだ。

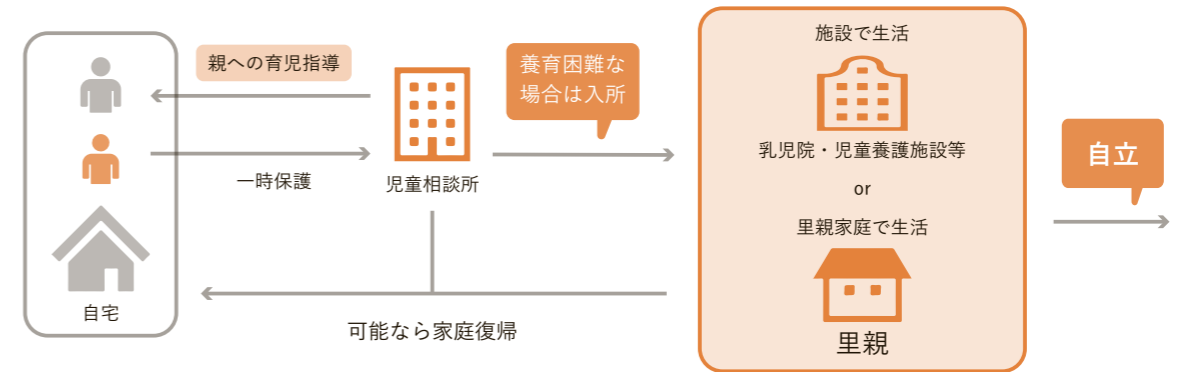
虐待相談件数は現在でも毎年過去最多を更新しており、和歌山県内も例外ではなく令和5年時点で最多の2,192件が報告されています。また、虐待の種類にも変化が現れており、平成25年以降は心理的虐待の割合が過半数を占めています。



Q. 家族と暮らせないこどもたちはどうなるの？

A. ほとんどのこどもたちは施設で暮らしているよ。

虐待等の理由によって家族と暮らせなくなったこどもたちには以下のような流れで支援が行われます。主に児童相談所が窓口となり、こどもの一時保護・家庭環境と保護者やこどもの状況を把握し、支援方針を決定します。



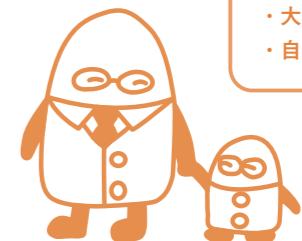
Q. なぜ里親が必要なの？施設だけじゃダメなの？

A. こどもの健やかな成長には家庭環境がとても大切なんだ。

家族と離れて暮らすこどもたちが温かい愛情と正しい理解を持った家庭環境で生活することは、成長する上で極めて重要な「特定の大人との愛着関係」を育みます。こどもたちの環境を整え、健全な育成を図るのが里親制度です。

里親家庭での生活は、施設での生活とは違った様々な出来事を体験することができます。しかし、家族と離れて暮らすこどもに対して対応可能な里親は限られており、全てのこどもに対して健全な家庭環境を用意しきれないのが現状です。

理想的なのは、こども一人ひとりの事情を尊重し、最も適した里親家庭で生活できる状態です。



- ・実践的な生活技術
- ・人との適切な関係の取り方
- ・大学/専修学校等への進学
- ・自立後の安心感 etc...

里親支援センターほっとの活動報告

2024

— Annual Report —

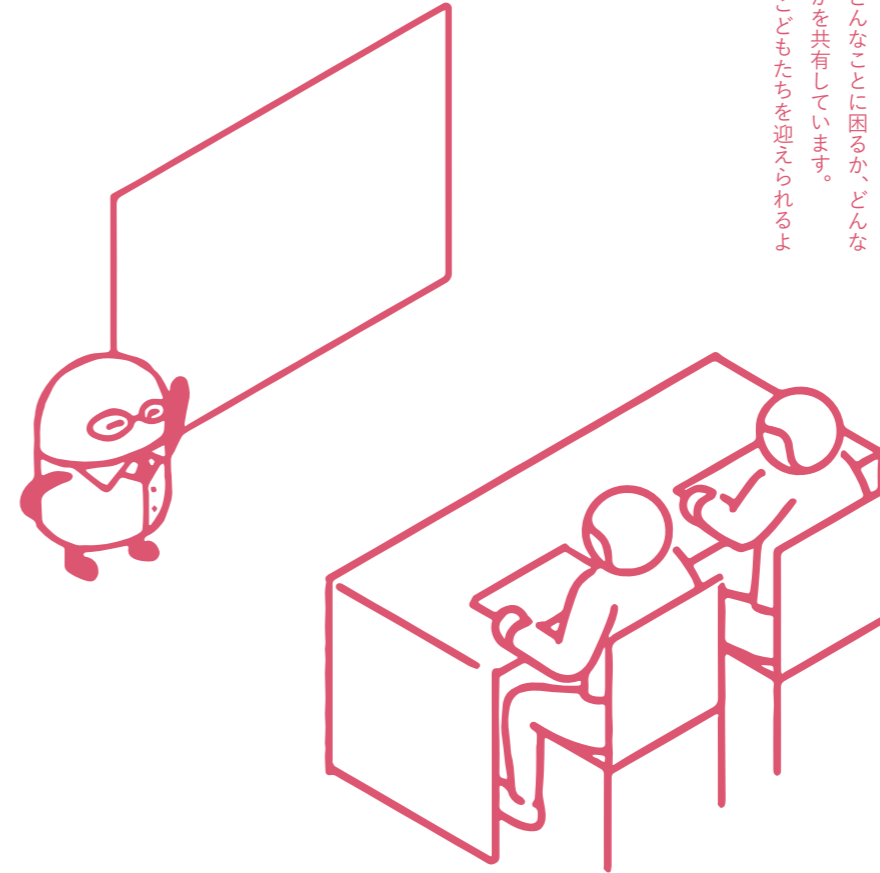
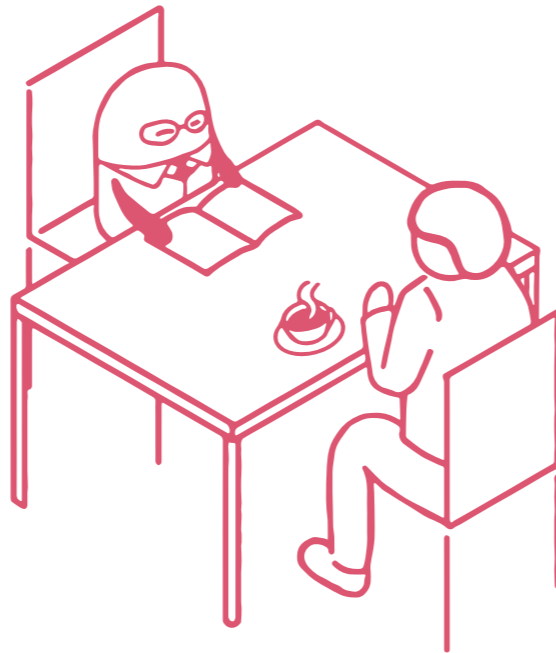
「里親支援センターほっと」とは？

里親支援センターほっとは、和歌山県子ども家庭局子ども支援課から業務委託を受けて活動しています。主な活動内容は、里親制度についての普及・啓発活動、子どもたちや里親をされている方々の相談支援などです。



つながる

里親制度をたくさんの方に知ってもらうきっかけとして、紀南の各地域で相談会や cafe を開いています。地域の皆さんとゆっくりお話ししながら、里親制度について一緒に考え、理解を深めていきたいと思っています。そんなつながりが、社会的養護が必要な子どもたちにとって、安心して暮らせる地域づくりにつながると信じています。



たえる

里親制度を知っていただくために、行政や企業、地域の団体、学校、医療関係者などが集まる場に出向いてお話しをしています。
なかでも、子どもの暮らしに深く関わる学校では、校長先生や先生方に制度の説明を行い、里親家庭で育つ子どもたちが学校でどんなことに困るか、どんな関わりが安心につながるかを共有しています。
地域や学校があなたがかく子どもたちを迎えられるよう取り組んでいます。

相談会・パネル展

里親制度などの説明を個別に行う相談会と里親制度を説明したパネルの展示を各地域で行っています。



2024年開催

4月 北山村	6月 那智勝浦町	10月 串本町	12月 田辺市
5月 上富田町	7月 古座川町	10月 新宮市	1月 みなべ町
5月 新宮市	8月 白浜町	10月 田辺市	
6月 すさみ町	9月 太地町	11月 田辺市	

さとおや cafe ほっと

誰でも気軽に里親制度について話せるように、cafeのような雰囲気作りを目指しています。



2024年開催

4月～2025年3月まで毎月田辺市にて開催		
8月 北山村	11月 那智勝浦町	1月 白浜町
9月 みなべ町	12月 太地町	2月 すさみ町
9月 串本町	12月 古座川町	3月 田辺市
10月 上富田町	12月 新宮市	

学校訪問

教育機関に新しく配属された園長先生や校長先生の元へ訪問し、里親制度について説明をしています。



2024年学校訪問

小学校	12校	特別支援学校	1校	
中学校	8校	校長会事務局校	2校	
高等学校	5校	PTA事務局校	2校	合計 30校

出前講座

行政や企業、医療関係者が集まる場で里親制度について説明をしています。講座は無料で開催しています。



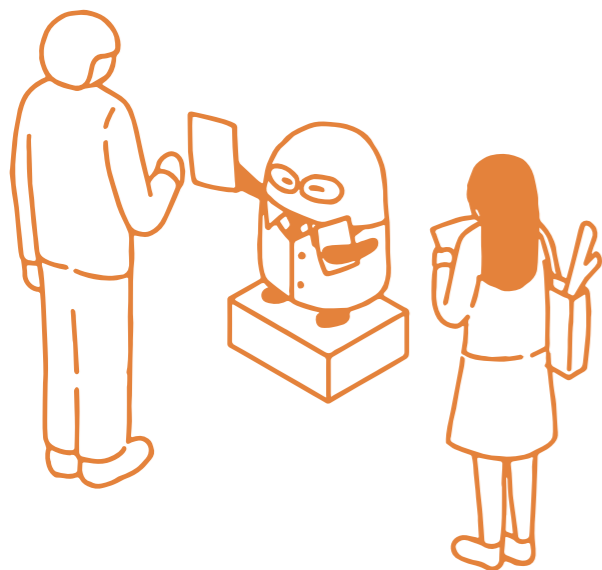
2024年出前講座

4月	田辺市三栖地区民生児童委員会 (18名)
5月	紀南看護専門学校 (100名)
6月	上富田町はるかぜ保育所 (16名)
7月	新宮市要保護児童対策地域協議会代表者会議 (28)
2月	新宮市母子保健推進委員会 (9名)
3月	白浜町青少年健全育成推進大会 (25名)
3月	みなべ町民生児童委員協議会定例会 (30名)

とどける

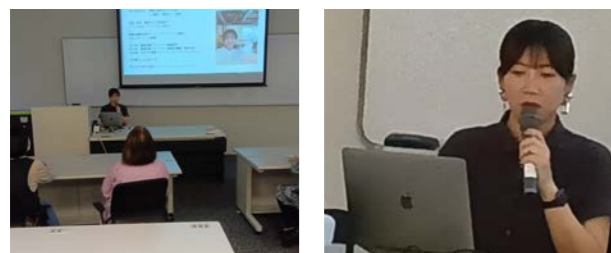
街を歩いているときにふと目に入る広告や、スーパーや郵便局で何気なく手に取ったパンフレットなど、わざわざ話を聞きに行かなくても、里親制度を知るきっかけになるような工夫を入れています。

これまで里親制度を知らなかった方にも、自然と届くような「きっかけづくり」を大切にしながら、たくさんの人に制度の存在を知ってもらえるような活動をしています。



スキルアップ研修

子育てに役立つ知識やスキルを学べるよう、その分野に詳しい講師を招き、実践的に学べる研修を行っています。



子どもが楽しんで片付けに取り組めるように、整理収納アドバイザー・榎本けいこさんを講師に迎え、研修を実施しました。

バス広告

知るきっかけづくりとして、街中を走る明光バス、熊野御坊南海バス、龍神バスに広告を掲載しています。



パンフレット配布

里親支援センターほっとのスタンドを紀南地域の公共施設やスーパー、郵便局などに設置しています。



スタンド配置数

11市町村・スーパーや公共施設 265箇所

郵便局、エバグリーン店舗、JA（金融機関・A コープ）オークワ店舗、児童館、公民館、道の駅、行政部局、各団体

和歌山県養育里親研修

里親になりたいと思った方が安心して一歩を踏み出せるよう、養育里親研修を実施しています。



養育里親研修は毎年5月、9月の2回開催。4日間は里親に関する基礎知識などの研修を受け、2日間は児童養護施設やファミリーホームでの体験実習を受けます。2024年度も養育里親に登録するまでのサポートを行いました。

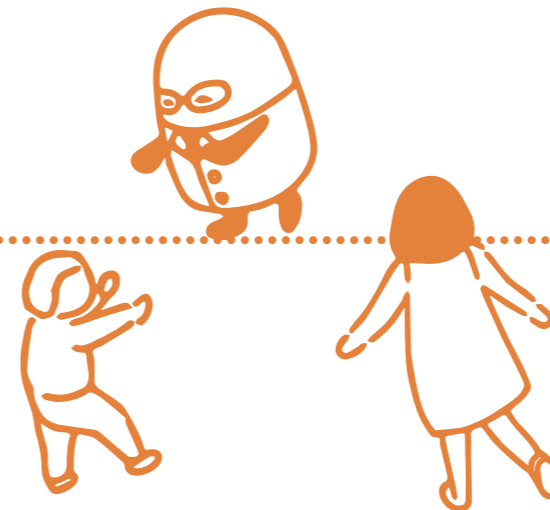
広告掲載

啓発活動がより多くの方に届くよう、新聞や広報誌にイベント開催の広告を掲載しています。



啓発グッズ配布

啓発グッズを配ることで、受け取った人が認識し、さらに周囲に広めてくれるきっかけになればと考えています。



里親サロン会

里親同士がつながり、日頃の悩みを気軽に相談したり、情報交換をしたりできる交流の場を開催しています。



地域イベントの参加

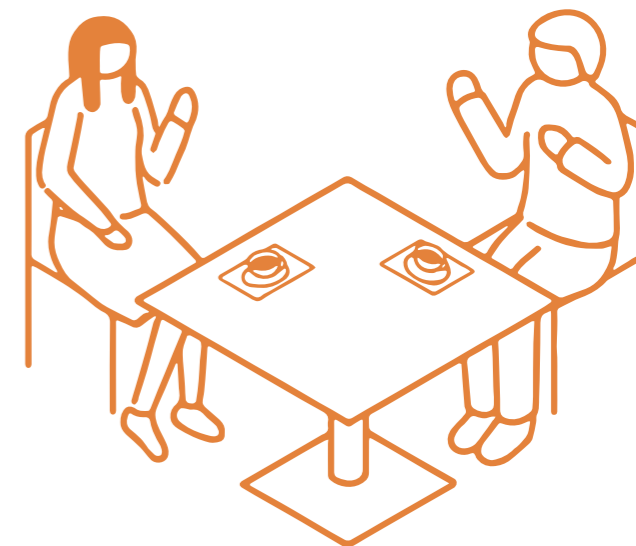
たくさんの方が訪れる地域のイベントに積極的に参加し、人との交流を大切にしながら啓発活動をしています。



みなべ町	UME-1 フェスタ	白浜町	しら・はぐフェスティバル
田辺市	ふれあい文化祭	古座川町	秋祭り
	葉の音	那智勝浦町	福祉健康まつり
	ふれあい人権フェスタ	北山村	じゃばら祭
	JAわいわいフェスタ		
上富田町	あっそ de えきなカマルシェ		

とどける

これから里親になりたい方への支援や、里親になった後のフォローを行っています。里親同士がつながり、情報を共有できる交流会や、こどもの成長について学び合える勉強会なども定期的に開催。
里親だけの負担にならないよう支え続けることが大事だと思っています。



10月

里親月間

里親月間（10月）は、「里親制度」への理解と関心を高めるために設けられた啓発期間です。全国でさまざまなイベントや広報活動が行われ、里親の役割や必要性について広く伝えることを目的としています。

里親支援センターほっとでは里親月間に街頭キャンペーンやパネル展、相談会、さとおや cafe、映画上映会を行いました。

街頭キャンペーン



キャンペーン実施場所

オークワバビロンシティ田辺店	A コープ紀南 VASEO
A コープ紀南 COOK-GARDEN	スーパーセンターオークワ南紀店

里親や和歌山県子ども支援課の職員、行政の里親担当の職員などが街頭キャンペーンに参加し、ボールペンやティッシュの啓発物を配布しました。

相談会

実施場所

和歌山県交流情報センター Big-U
よりみちサロン いおり
新宮市福祉センター

さとおや cafe

実施場所

和歌山県交流情報センター Big-U
上富田町岩田公民館

パネル展

展示場所

和歌山県交流情報センター Big-U	新宮市役所
田辺市立図書館 たなべる	串本町役場
よりみちサロン いおり	計5ヶ所で展示

店頭キャンペーン



協力店舗

田辺市	EH 製菓 / 五郎庵	みなべ町	キッチンとまり木
新宮市	カフェフロルデマリア		

里親制度にこれまで接点のなかった方々とつながるきっかけとして、お菓子を扱う店舗に協力をお願いし、パンフレットにお菓子を添えて配布しました。4店舗が協力していただき、計330冊のパンフレットがお店を訪れたお客様の手に渡りました。

映画上映会

監督：佐野翔音「育ててくれて、ありがとう。」

10月20日	那智勝浦町体育文化会館
11月30日	上富田文化会館

里親制度に焦点をあてた映画「育ててくれて、ありがとう。」の上映会を行いました。那智勝浦町での上映会では午前と午後の2部上映で80人以上の方が鑑賞に訪れ、11月に上富田町で開催した上映会では2部上映で200人以上の方が参加してくれました。



紀南里親支援連絡会会議

2024年8月26日 紀南文化会館小ホール 講師：高口茂雄・高口ルース 参加者85名 46団体

毎年、和歌山県子ども家庭局、紀南地域の関係機関が参加し、里親制度に関する理解を深めるための研修会として開催しています。関係機関者だけでなく、誰でも参加できるように会議の内容も変化してきています。



里親経験者である高口茂雄さん・ルースさんご夫妻が講師として登壇し、支援に役立つ視点を共有してくれました。実子・養子・里子の「きょうだい4人」を育ててきたご夫妻は、里親を始めたきっかけや、養子・里子を迎えてからの

エピソード、そして子育てにおいて大切にしていることなどを語りました。講演の最後には、ご夫妻に悩みを相談する里親の姿も見られ、里親や子どもに関わる多くの人たちの関心を惹きつける時間となりました。



2023年開催

7月28日 旧串本ロイヤルホテル 講師：伊藤嘉余子

大阪公立大学の教授・伊藤嘉余子さんが登壇。伊藤さんは里親支援に関する研究を行っており、その専門的な視点から、海外と日本の里親制度の違いについて講演されました。



●紀南里親支援連絡会とは？

紀南里親支援連絡会は、紀南地方の市町村、各団体・機関が協力して、里親制度の普及・里親委託の増進を図るとともに、こどもの最善の利益を図ることを目的としています。加盟団体は、紀南地方（みなべ町から北山村までの市町村）で本会の趣旨に賛同する市町村、各団体・機関です。令和7年5月現在は60の団体が加盟しています。主な活動としては、里親制度を多くの方に正しく理解してもらうための啓発活動を行っています。里親家庭へのフォローや社会的養護の必要な子どもへの迅速な対応を行うため、関係機関との連絡提携をしています。その他、NPO法人や民間団体へ里親制度の啓発を支援する団体を募り、地域の方に密着した啓発活動としてイベントなどを展開し、啓発活動に関する調査・研究を推進しています。

各市町村には5団体の加盟を依頼（現在45団体が加盟）

加盟団体名	加盟団体数
市町村行政部局	11 団体
市町村議会 / 東牟婁郡町村議会議長会	6 団体
市町村社会福祉協議会	11 団体
市町村民生児童委員協議会	10 団体
市町村青少年育成市町村民会議	7 団体

その他14の加盟団体

田辺西牟婁社会教育委員連絡協議会	児童養護施設ひまわり寮
西牟婁地方青少年育成市町村民会議連絡協議会	児童養護施設くすのき
和歌山県里親会紀南支部	児童養護施設紀南学園
田辺市PTA連合会	特定非営利活動法人ハートツリー
新宮東牟婁PTA連合会	白浜町教育相談室ふれあいルーム
田辺・西牟婁小中校長会連絡協議会	くまのっ子児童家庭支援センターのこのこ
東牟婁小中校長会連絡協議会	一般社団法人 ruam るあむ
みなべ町小中校長会	



紀南里親支援連絡会

事務局は「里親支援センターほっと」です。

社会福祉法人和歌山県福祉事業団「里親支援センターほっと」が事務局を担当しています。当センターは、和歌山県子ども家庭局子ども支援課と委託契約を結び、里親支援機関（フォスタリング機関）として里親制度の普及・啓発に努めています。

住所 〒646-0217 和歌山県田辺市城山台 5-1
 電話番号 0739-34-2735
 開所時間 8:30-17:30(月～金)
 電話受付時間 8:30-20:00(休日・祝日も対応します)

わたしたちの思い



まずは“里親”について知って欲しい。

和歌山県里親会 副会長 紀南支部長 吉田拙堂さん

この連絡会は里親制度を広く知ってもらうために立ち上がりました。今もその啓発の役割が大きいと思っています。ただ現状、紀南地域ではまだまだ里親の数が足りていません。里親には、大きく分けて養育里親と養育縁組を望む方がいます。連絡会としてはその両方をしっかり理解し、支援できる体制づくりが必要です。子ども一人ひとりにとって最善の環境をどう見つけていくか、それがいちばん大事なことだと思います。関係者が経験や情報を共有して、子どもに合った対応を臨機応変にしているような場になればと思っています。制度の理解を深めるだけでなく、実際の現場でどう動くか、その判断力も求められていると感じます。



子どもが健やかに暮らせる地域に。

子ども家庭局 子ども支援課 課長 田甫佳奈さん

里親支援連絡会の皆様には、地域での連携を通じて里親制度の普及啓発に取り組んでいただいております。その取組は「地域全体で子どもを育てる」という意識醸成にもつながっていると感じています。信頼できる大人のもとで心身ともに安定した生活を送ることが、子どもの健やかな成長の土台になります。県内には様々な事情で親元で暮らすことができない子どもが約300人います。より多くの子どもたちが家庭的な環境で生活することができるよう、「子どもの最善の利益を保障する」という思いを大切に、里親委託の推進に取り組んで参りますので、引き続き皆様方のご協力をよろしくお願い致します。



親も子も、地域で育み、支援する。

里親支援センターほっと センター長 川口則光さん

今の社会では、誰もが子育てに悩み、孤立する可能性を抱えています。身近に頼れる人がいない中で、不安やストレスを一人で抱えてしまう親も少なくありません。その重圧が、時には虐待というかたちで表れてしまうこともあります。私たち連絡会は、親も子も地域全体で支える仕組みづくりを目指しています。地域に里親が増えれば、子どもが転校など大きな環境変化を経験する必要が減ったり、里親同士で助け合ったりすることができ、安心して暮らせる選択肢も広がります。人と人がつながり、親も子も支え合って暮らせる地域を、皆さんとともにつくっていきたくて願っています。

編集後記

「私なら」を、考えています。

えりんご



里親をしている方々からいろいろなエピソードを聞かせていただき、「その気持ち、すごくわかる!」「そういう捉え方をしたらいいのか〜」「想像しただけで胸がきゅっとなる…」など、ふわっと想像していた感情が現実味をもってやってきて私の気持ちは大いそがでした。

そして今、心穏やかに子どもたちの「今」と「これから」について想いをめぐらせています。誰かを頼りたい時、喜びを分かち合いたい時、どんな時でも心置きなく連絡ができたりに会いに行ったり、思い出すだけで心がほわっとしたり、そんな人がいるといいな〜と。

今回の取材を通して、里親さんの声、子どもたちの状況、支援センターなどの活動を知り、それぞれに「私なら」と考えていることが里親制度の理解につながる1つかもしれないと感じています。

早く取材を引き受けてくださった皆さま、本当にありがとうございました。またどこかでお会いした時、ちょっぴり知り合いな感じでその後の話を聞かせてもらえたら嬉しいです。